

標 題 : A New Analysis on Self-Control in Intertemporal Choice and
Mediterranean Dietary Pattern.
異時点間選択の自己制御と地中海食事パターンに関する新しい解析

著 者 : B.C. Howatt, et al. (米国 カンザス州立大学 心理科学部)

掲 載 誌 : Front Public Health. 2019 Jun 26; 7: 165.

要 旨 :

この論文は、健康的な食事習慣、特に地中海食事(以下 MD)の順守と異時点間選択の衝動性との間の関連を研究した Muñoz Torrecillas ら(1)の結果および結論を完成する。

衝動性を、大きな遅れた支払いよりも小さな即時の支払いを強く優先することと定義でき、最初の研究では自動採点装置を使用して計算したパラメーター k (双曲線型割引関数の割引率)によってこの行動をとらえた。

地中海食事の順守を KIDMED 指数によって測定してから 3 段階に分類した : 高、中、低。

高順守群は最も浅い割引で低順守群は最も大幅な割引であったと、筆者は観察したが、データを深く統計的には解析しなかった。

その結果として本論文の目的は、この関連について予備的な定量モデルを提案してその有意性を評価することである。

地中海食事の順守と割引率で予測した遅延報酬の大きさとの間の有意な相互作用を、検査が明らかにした。

特に、地中海食事の順守が高まるときの衝動性低下の度合は、小さめの遅延報酬によって強く影響される。

これらの研究結果は、支払いが小さいときに健康的な食事習慣は大きな自己制御と密接に関連するとみえるとの筆者の主張と一致するので、さらに検討を必要とする。

結果は因果関係を示していないけれども、行動的介入を開発する手段として、この関連の方向を今後の研究が調査することも可能である。

キーワード : 地中海食事、衝動性、異時点間選択、自己制御、時間割引
